



えんの森でコンサート



昨年末、音楽ボランティアの保刈さんを中心とした音楽サークルのメンバーや、地域の方々によるコンサートが開催されました。今回で7回目のコンサート。小学生から80代まで、ピアノ、歌、ウクレレ、リコーダー、ダンスあり、多彩な2時間となりました。

次回のコンサートは七夕の頃を予定しているとのこと。楽しみにしています♪

今だからこそ誰もが安心できる社会をめざそう！

お手元に届く頃には旧暦のお正月過ぎでしょうか。新しい年の初めはすがすがしいものですが、重苦しい気分が立ち込めてさっぱりしません。乱暴な発言を連発するトランプさんが超大国アメリカの大統領になったことに象徴されるように、「自分だけ良ければ」という気分満ちているせいでしょうか。こんな風では誰も幸せにならないのにとニュース見ながらつぶやいています。

昨年暮れ介護保険法改定に対する社会保障審議会介護保険部会の意見がまとまりました。心配していた利用料の2割負担化や訪問介護の生活援助切りなどはとりあえず現状維持になりましたが、次回改正に先送りしたに過ぎません。

介護保険や医療保険を含む社会保障費は来年度1400億円の削減(自然増に対して)が予定されていますが、『社会保障と税の一体改革』の財源に予定されていた消費税2%アップは先送りされましたから、削減は当然の雰囲気です。しかし8%に上げたとき法人税減税があり、社会保障に回せる分はほんのわずかになりました。他の減税の補填に回るのでは財源不足の解消にならないのはシロウトだって分かります。高齢者だけでなく、非正規雇用率は上がり、母子家庭は貧困にあえぎ、若者は奨学金の返済に苦しむ。社会保障費や教育費に係わる課題が山をなしています。

数年前デンマークの高齢者福祉研修に行ったとき、マックセットが1,200円にビックリ仰天！消費税率はなんと25%です。にもかかわらず納税に対する肯定感は日本よりはるかに高く「国民の幸福度世界一」です。だって教育は幼時から大学まで無償、医療費もほとんど無償、高齢者福祉はたとえば「認知症グループホーム入所が適当」と判定されれば年金額などの収入に係わりなく入居することができるのですから。

しばらく前、地域のケアマネジャーが「私は孫の代に借金を残すなら、野垂れ死んでもいいと思っています」と言い出し、ビックリしました。孫思いの祖母さんなのでしょうが、孫たちはそんなことを望むのでしょうか。それより誰もが安心できる社会を目指すほうがずっと建設的。人間らしく生きていくために必要なことをみんながしっかり考え、発信していく。国ができること、自治体ができること、地域でできること、まだまだたくさんあるはず。

えんも地域の人々を支える役割りをはたすために、前を向いて進む年にしようと思います。どうぞ力を貸してください。

(代表理事 小島美里)

訪問して
ケアサポートえん
(ホームヘルパー派遣)

2016年10月30日(日)
第16回暮らしネット・えん
みんなのコンサート

元宝ジェンヌ/溪なつき
ピアノ/大川知子

落葉を集めて作った看板

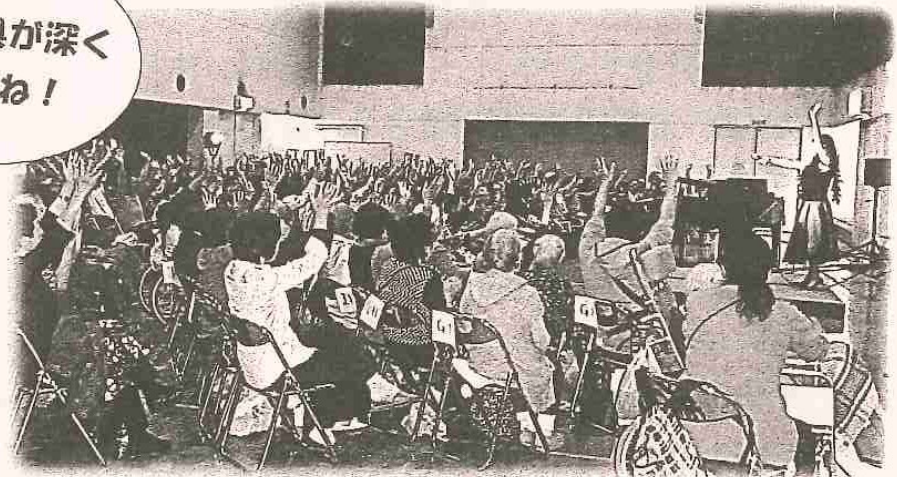


～元宝ジェンヌのうたごえをあなたに～

私は草月流の師範を60年続けました柳田でございます。今回のコンサートは数年ぶりに参加させて頂き、平凡に過ごしている私にはとても良い刺激になりました。週3日の通院があり、日曜日はゆっくり出来る日なのですが、ヘルパーさんに髪を結ってもらい、着替えも手伝ってもらい、車で迎えてもらい会場に行きました。深川で育ちましたので、越路吹雪さんの宝塚歌劇は良く観に行きました。今回もとてもすばらしい方の歌声、皆んなと一緒に♪ドレミのうた♪の手遊びも楽しゅうございました。えんさんはいつもすばらしい一流の方のコンサートをされていて感心しております。又、最後に演奏者に花束を渡すお役目を頂き、とても嬉しゅうございました。楽しい一時をありがとうございました。これからも良い企画を望んでおります。

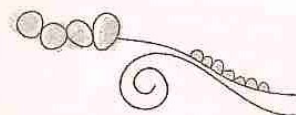
(ケアサポートえん利用者/柳田シン)

芸事は奥が深く
大変ですね!



皆んな一緒に♪ドレミのうた♪

学習会 ～気づいていく時間～



2014年度、介護従事者による高齢者虐待の相談・通報件数は1120件、うち虐待と判断されたものは300件と前年を大きく上回りました。高齢者虐待防止法が施行されて以来、増加の一途です(2005年の5倍強)。

虐待の判断は難しいし、施設の評判が悪化する事を恐れ通報件数はほんの一部と思われます。私の経験では心身の疲労が極限になれば必ず暴力的になるか、抑うつ的になるし、私たち自身が粗末に扱われれば、より弱い存在を粗末に扱うものです。

ところで、この7月の津久井やまゆり園の元職員による事件は、私達と決して無縁ではないテーマがいくつも見えて、やりきれない思いがありました。

そんな中で、10月13、27日に、暮らしネット・えんでも「虐待を見つめてみよう」と“鼻めがねと言う暴力～虐待の芽はすぐそこに(林田俊弘著2016)”をテキストに学習会が持たれました。筆者は練馬区のNPO法人ミニケアホーム「きみさんち」理事長で、多角的な事業を展開している認知症ケアの専門家です。

10月13日の夜に私は参加しました。仕事を終えて、グループホームえん、デイホームえん、多機能ホームまどかの20人ほどの職員がグループリビングえんの森のアトリエに集まり、夜食のおにぎりを頬張った後、学習会が始まりました。テキストに触発され、仲間と語り合っていくうちに他人事と思っていた「虐待」は自分自身にも思い当たる、と気づいていく時間でした。

- ◆他人事のように感じていたけど、無自覚のうちに事実として自分にもある。夜勤など疲れていると、利用者さんを急がせてしまう事がありました。
- ◆自分が時間に追われているとき、早くしなきゃと焦って、利用者さんから「もういいです。出て行ってください」と言われてしまいました。
- ◆自分が「まずはスピード」を重視しているときは、危険な兆候なんですね。
- ◆自分が先回りして利用者さんの自由を奪っていることもある。歩行の不安定な利用者さんが立ち上がるだけで、「トイレですか」とか。利用者さんはとても不愉快ではないかしら。職員同士で率直に同僚の間違いを伝えられるような関係を創っていきたいですね。

次々に自分の日頃の、語りきれない想いを伝え合う場ともなりました。最後に、「いろいろな思い、悩み、相談事等を互いに表現できる職場環境が、虐待の芽を

摘んでいくはず。自由にものが言える雰囲気を作っていく中で自分の行為を客観視していきましょう」と小島代表理事から話がありました。

虐待を予防するためにも利用者さんやご家族、また職員一人ひとりが、かけがえのない存在として大事にされる「えん」でありたい、そんな想いを抱かせた学習会でした。

(暮らしネット・えん看護師／新井 幸恵)

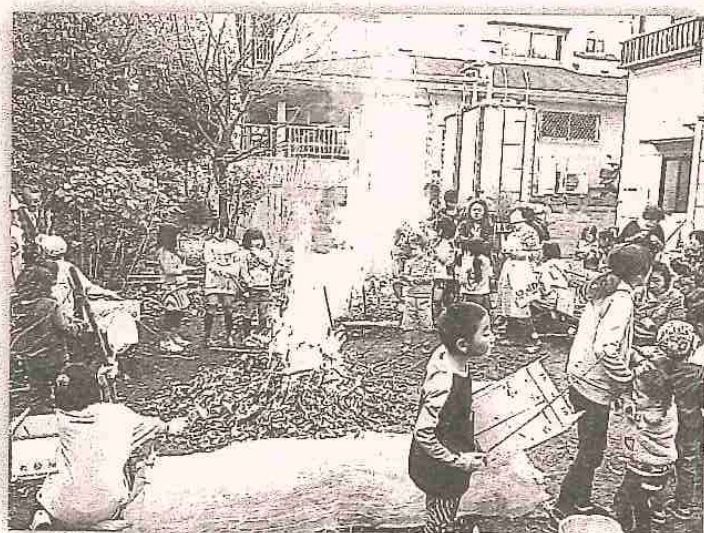
認知症対応型通所介護

通って・泊まって
デイホームえん
(デイサービス)



焼き芋タイムに参加して

～2016年12月4日(日) えんの庭にて～



前回は利用者である母親と一緒に焼き芋タイムに参加しましたが、今回はボランティアとして初めて参加させて頂きました。

焼き芋ボランティアの皆さんは、以前お会いした事がある方、初めてお会いする方…、最初は少し緊張しましたが、一緒に山を掃き、落ち葉を集め、焼き芋の準備が始ま

る頃には、長年の友人のように打ち解けました。昼食にと、えんのスタッフの方々が作ってくださったカレー、豚汁も美味しく頂きました。

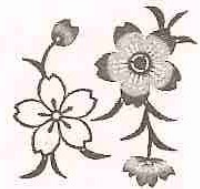
焼き芋タイムが12年目というのに今迄一度も雨が降った事がない、とお聞きして驚きました。今回は約120名の来場者数だったそうです。

走り回る子供達…「焼き芋、まだですか？」と子供ではなく、大人の声…待ち遠しいには分りますが、焼きあがるまで時間が掛かります。

殆んどお役に立てませんでした。改めてボランティアの方々の責任、苦労が身に染みしました。無事に終わって良かった！の一言に尽きます。来年も日時が合えば参加したいと思えます。

(デイホームえん利用者家族／鈴木賢治)

～沖縄研修に参加して～



11/4～7 と、那覇市で行われた小島代表が講師の「沖縄県地域密着型サービス外部評価調査員フォローアップ研修」に同行した。

調査員への講義の中で、グループホームえん 13 年の歴史をスライドで見ながらの「認知症グループホームの現状、目指すこと」では、介護保険スタート当時グループホームは、認知症ケアの切り札と謳われ「一緒にご飯を作って食べるのがグループホーム」、しかしその後は→「中重度対応」→「看取り対応」と変化してきた流れを振り返った。私自身も 13 年の歩みを大いに振り返る事が出来た。

開設の数ヶ月前、大工さんがまだ骨組み段階の中、グループホームえんを見学し入職。先輩ヘルパー方から研修を受け、「グループホームは終の住処として、在宅の延長線上」、介護は「熱いハート・冷めた頭・逞しい腕が大事」、「先手は打たないが、先を見越したケアが大事」、「あえて死角を作り、利用者の逃げ場を作っている」、「リスクも踏まえ、自由を尊重すること」など、右も左も解らない中教えてもらったことを、昨日のことの様に思い出した。

受講者の方から「その人らしい生活を支援するとは具体的にどう言うことですか!？」と質問されたのが胸に刺さった。認知症の進行や集団生活での制約の中、どうしてもその人の色が1色ずつ失われ、表情が画一的になり、個性を失いがちになる。日本社会を見渡しても「その人らしい生活」とは逆行し、多様性を排除し許容範囲が狭い社会に傾いている感がある。認知症や障害者が生きやすい社会は、皆が優しくなれ、生きやすい社会なのではないだろうか?現代がより効率や経済重視し、管理社会、右傾化となって息苦しくなろうとも、まず自分が社会や環境に変えられてはいけないと痛感した。

スライドの中で、ベランダで重度の認知症になった妻に夫がそっと寄り添い、静かに庭を眺めるなつかしい写真には、認知症になっても誰にも犯されない時間と空間があった。グループホームえんも、集団生活の中で、不自由は多々あると思うが「今日1日、楽しかったな～」と少しでも利用者方が感じられる支援があるホームにして行かねばと、改めて考えさせられた。

研修翌日、訪れた「ひめゆり資料館」では、敗戦濃厚な S20 年 3 月以降、ひめゆり学徒隊(15 才程の女生徒や教師)の 100 人以上が軍に見捨てられ、自決や戦死した事実を目の当たりにした。「旧海軍指令壕」では、集団で自決した手榴弾の跡が壁に残っていた。「沖縄戦は 4 人に 1 人が亡くなり、この世の地獄を1つにまとめた戦地」と言われる。多大な犠牲の上に、今の平和があることを痛感した。基地問題にしても、沖縄ばかりに負担を押しつけてはならないと再認識もした沖縄だった。

(グループホームえん/滝谷賢介)



国立ハンセン病療養所多摩全生園を見学して



11月の末、秋の静かな一日、全生園をたずねた。

広い敷地の中、何軒かあるアパート風の建物は人の住んでいる様子はほとんどない。寺院や教会、学校もあった。子どももいたのだ。ここのイメージは、寂しげな切りとおしの道を初老の人が行き来している。静かだが少し暗い、そんな風景だった。しかし広々とした敷地と林にはそんな暗さはなかった。

林を抜けて「国立ハンセン病資料館」に着く。まず展示室。收容された患者さんの作業着のようなもの、部屋着など、村山大島風の気易そうな何点かが並ぶ。そして患者さんたちの作品、絵画、写真、みな誠実で静かなたたずまいだ。

戦後、私は、杉並、所沢、練馬とこの地にそう遠くない処に住んでいた。しかし一度も訪ねたことはなかった。

昭和二十年代、多くの関係書籍を読み、講演会にも出席した。結果、この病いが治らないもの、伝染力の強いものという概念を持ってしまった。その当時、すでに伝染力はごく弱く治癒する病気になり、他の国では開放治療に変わっていたことは教えられなかった。今ではこの病そのものが1年に数人しか発症せず、通院治療で簡単に治るものになったという。

資料展示室を学芸員さんの案内で見学した後、ハンセン病元患者さんの証言映像をホールで観た。

元患者さんの最後の説明。「現在ここに暮らす人は20人に満たないですが、ここで余生を送ります。ここを出ることはできないのです」。ずっしりと重いことばであった。

(グループリビングえんの森住人／布施杏子)



※この療養所で撮影された映画『あん』（河瀬直美監督）の市内上映会をきっかけに、ボランティア、職員、えんの森居住者有志で見学会を催しました。20数年前まで続いたハンセン病患者への人権侵害の歴史を知ることができます。清瀬、秋津、久米川駅からバスあり。

●有償ボランティア大募集！！●

送迎車運転、配食サービスお弁当配達、生活支援ヘルパー等々
60才以上歓迎！！（問い合わせ：暮らしネット・えん事務局）

● 今後の予定 ●

公益財団法人JKA 平成26年度公益事業振興補助事業
2016年度 新座ワークショップ

高齢者グループリビングの社会的普及に向けた実践的調査研究報告会

グループリビング協議会は、これまでの活動の中で、グループリビングとは「自由な暮らし、自分らしく、共に住まう」ものだという認識の上に、高齢者グループリビングをさらに広げていくために、今年度から3カ年の調査研究を実施しています。全国の先駆的な高齢者小規模共同居住の調査を行った報告会を開催いたします。居住施設の運営者やこれから作りたい人をはじめ、高齢期の住まい方に関心のある方の参加をお待ちします。

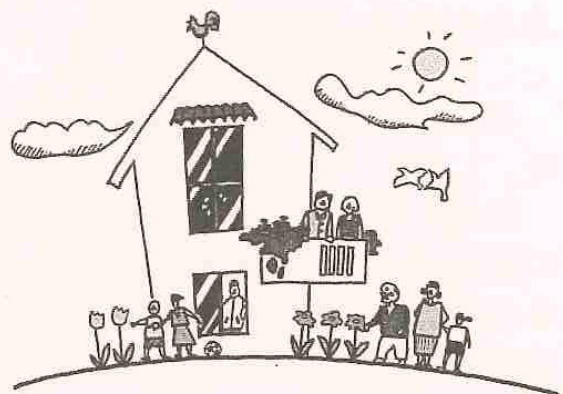
会場:グループリビングえんの森
(暮らしネット・えん隣り)

日時:3月4日(土)13:30~17:00

参加費:500円

問い合わせ先

暮らしネット・えん 小島 048-480-4150



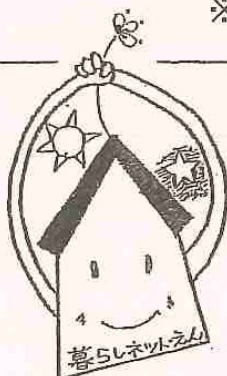
—— 認定NPO暮らしネット・えんへの寄付ありがとうございました! ——

先日、前年分領収書をお送りいたしました。税制上の特例措置により、個人は寄付金控除、法人は損金算入、相続財産の寄付は非課税となりますので、申告時にお使いください。今後とも暮らしネット・えんの活動にお力添えをお願いいたします。

地域で暮らし続けていくために 2016年度新規・継続会員募集中!

正会員:1000円 賛助会員:3000円

※詳しいことは、事務局までお問い合わせください。



■ 編集・発行 認定NPO法人暮らしネット・えん

〒352-0033 埼玉県新座市石神2-1-4

電話:048-480-4150 FAX:048-201-1311

Eメール:npoenn@jcom.home.ne.jp

ホームページ:http://npoenn.com/